

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

7年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 地域の方の思いや願いを自分の思いと重ねて聞くことができる
- ・ 地域の方の思いや願いから、自分の本音に向き合い考える
- ・ 自分の思いや本音を相手に伝えることができる
- ・ 仲間の思いや本音を自分と重ねて聞き、思いを返すことができる

実施した内容

- ・ 読み物教材を通して主人公を自分自身におきかえ、自分の本音に向き合う
- ・ 自分の本音を文章に書き、仲間に伝える
- ・ 仲間の本音を聞き、共感したり自分の本音とのちがいを考えたり、深めたりする

工夫した点

- ・ 書く活動をする前に、グループで読み物教材について意見を交流する時間を設定したことで、書くことに苦手意識がある生徒も意欲的に取り組むことができた
- ・ 自分の考えた意見をこれまでの学習と関連付けて取り組むことで、当事者の思いを踏まえた自分の考えや思いを仲間に伝えることができた

他教科との
関連

国語・特別活動

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

3年生・国語、道徳

目標・人権教育のねらい

- ・学校を含めた社会の中で様々な「もちあじ」のある人とともに生きていることを知る。
- ・相手の思いに気づき、思いに答えようとすることができる。
- ・暮らしの中にある合理的配慮に気づき、自分たちにできることを考えることができる。

実施した内容

- ・様々な障がいに向き合う機会を設け、その不便さや自分たちにできる支援の方法を考えさせた。また、個人個人には個性があり、尊重するべきことであるということを学習した。
- ・同時にそれぞれが様々な思いをもっていることを友だちと交流する中で知ることができるようにした。
- ・加えて「書く」ことを通して自分の思いや考えを表現できるようにその機会を増やしてきた。

工夫した点

- ・子どもたちが様々な観点から一人ひとりの「もちあじ」を知るきっかけをつくることできるように多くの教科において横断的に学習を進められるように工夫した。
- ・実際に視覚障がいのある方から聞き取りを行い、その実状を知ることができるように機会を設定した。
- ・個人からの配慮に留まらず、社会全体でみんなが暮らしやすい世の中になるよう、考えを広げていけるように身近な生活から振り返るようにした。

他教科との
関連

国語・社会・総合的な学習・道徳

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

1年生・道徳、生活

目標・人権教育のねらい

- ・家族のことや自分でできることを考えたり、家族の大切さや自分の家族によって支えられていること、家族と交流することの良さや楽しさがわかるとともに、自分の役割を積極的に果たして家族と触れ合うことができる。
- ・自分の家族の良さに気づき、各家庭の仕事に関する交流を通して、友だちにも同様に大切な家族があることに気づくことができる。

実施した内容

家族が笑顔になるように自分たちにできることを考え、家庭に返し実践する。やり方がわからないがやってみたいと思うことについては保護者をゲストティーチャーに招きやり方を教えてもらうことでできることを増やしていく。できるようになったことを家庭で実践することで自分の役割（自己有用感）を確立する。家族に認められたり、友だちに自分の役割を紹介することで自尊感情を育むことができる内容とした。

工夫した点

様々な家庭環境を抱える児童に配慮しながら、全員で取り組むことができる内容を精査し、家庭内で自分にできることを考えさせた。1年生でもできるお手伝いなどを考えさせることで自分の役割・家族が支え合いながら生活しているといった自己有用感や自尊感情を育む活動になるよう工夫した。

他教科との
関連

道徳・生活（家庭）「おうちのしごと」

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

5年生・総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・地域で働く人の姿から、仕事に対する思いや願いを知り、働くことについて前向きな態度を育てる。
- ・自分たちのくらしは、いろいろな人やいろいろな仕事に支えられていることを知ることができる。
- ・職業や仕事内容で差別や偏見をもつことは間違っていると気づくことができる。

実施した内容

- ・職業観を養うだけでなく、地域で働く人の思いや願いを知る活動を通して、自分たちが住む地域を好きになっていけるよう、様々な仕事に従事しておられる方からお話を聞かせていただく中で、その思いや仕事に対する誇りを感じられるように工夫した。
- ・また、「差別」や「偏見」について考え、相手の立場に立って物事を考えられるように、聴き取り学習を行った。

工夫した点

- ・地域人材を活用し、地場産業である食肉産業に関わる方やごみ清掃員の方から聞き取りを行い、その苦悩や苦勞といった生の声を聴くことで、切実な思いを受け止めやすいように工夫した。
- ・また、皮革製品にも焦点をあて、皮を使った小物作りを体験させることでその技術の高度さや大変さを身をもって感じることで仕事に対する畏敬の念を培うことができるようにした。

他教科との
関連

社会・総合的な学習・図工・道徳

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

7年生・国語、総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・地域の方からの聞き取りやフィールドワークを通して、地域が差別されてきたこと、今もなお差別・偏見に苦しむ現実があることを知る。
- ・差別が現実にも起こった際に、差別事象であることを見抜き、差別を許さない姿勢を、自信をもって発信できるようにする。
- ・生徒一人一人が当事者として考え、差別が現実にも起こった際に、どのように行動できるか考える。

実施した内容

- ・校区フィールドワークから、まちの人権課題を見つけ、人に優しいまちについて考える。
- ・地域の方から聞き取りを行い、まちづくりへの思いとその背景にある差別と出会う。
- ・差別に立ち向かう人について知り、今もある差別や格差について考えを深める。
- ・自分自身が差別に出会ったとき、どのように立ち向かうか意見交流をし、これからの自分の生き方について考える。

工夫した点

- ・前期課程での学びを生かし、引き続き自分たちが住む校区を出発点として取り組んだ。
- ・学年全員でのフィールドワークが実施できなかったため、班長が代表でフィールドワークを行い、そこで感じたことを学年全体に発信した。
- ・学年全員が当事者として考えるために、しっかりと自分の考えを書かせ、自分に向き合いながら意見を交流させた。

他教科との
関連

国語「話を聞いて質問しよう」

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

8年生・総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・キャリア教育を通じた事業所との出会いをもとに、誰もが生きやすい社会を作るうえでの将来の自分のありかたについて考える。
- ・働く人の思いに関わり、やりがいや厳しさについて知り、SDGsと仕事について考える。
- ・模擬面接や事業所との関わりを通して、社会に関わる態度と意欲を高める。

実施した内容

- ・校区にある4つの事業所にインタビューを行い、事業所の工夫や取り組みを知る。
- ・事業所を選択し、資料をもとに疑似採用面接を行う。
- ・事業所からの課題に対して、社員としてどのようなことができるのかを考える。
- ・事業所からの課題に対して自分の考えをプレゼンする。

工夫した点

- ・職業体験ができない中、その代替として授業を行った。
- ・4つの事業所のうち2つを校区内の食肉商店として、校区の地場産業に対する考え方や理解を深めるようにした。

他教科との
関連

総合的な学習 キャリア教育

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

9年生・社会、総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・これまでの人権学習で学んできたことを生かし、面接時の質問の中での差別的な質問を見抜く。
- ・進学や就職の際の面接においての差別的な質問に対して、差別を見逃さず、毅然と対応する姿勢を学ぶ。

実施した内容

- ・LIFE RPGを使い、自分の価値観を確認する。
- ・卒業後の進路について、自分に合った進路を選択できる知識を学ぶ。
- ・自己申告書や授業料についての知識を身につける。
- ・面接についての映像を視聴し、受け答えや立ち居振る舞いだけでなく、質問内容に着目して意見を交流する。

工夫した点

- ・これまで人権学習で学んできたことを生かすために、いわゆる「違反質問」を先に教えるのではなく、面接の動画の随所に巧妙に散りばめられた「違和感のある質問」について、生徒同士で交流させることにした。
- ・9年生の生徒にとって、迫ってきている受験の問題を題材にすることで、より生徒が自分事としてとらえることができるよう、工夫した。

他教科との
関連

- ・社会 日本国憲法「基本的人権の尊重」
- ・進路学習

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

2年生・国語、道徳

目標・人権教育のねらい

- ・外国の人々や文化に親しもうとするきっかけをつくり、その心情を育てる。
- ・我が国と外国の食文化や習慣の違いを知り、それらを尊重することの大切さに気付く。

実施した内容

- ・道徳の資料を使用し、世界の遊びや行事について調べ、興味を持つ。（1時間）
- ・他国の料理を調べ、食文化や習慣についてのクイズを行い、違いに気づかせる。（1時間）
- ・絵本「ふたりのサンドウィッチ」を読み、自分の考えを書く。（1時間）

工夫した点

- ・導入として、カタカナの料理・食べ物を集める活動を行い、児童の身近な事柄から展開を広げるようにした。
- ・クイズを出題する際には、自国と他国の違いについてだけでなく、その理由について十分に説明するようにした。

他教科との
関連

国語「かたかなで書くことば」

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

4年生・総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・情報（インターネット、噂話など）を目にしたときに、鵜呑みにせず、立ち止まって考えることと、その情報を安易に広めないことが人を傷つけない方法の一つだと知る。
- ・情報（インターネット、噂話など）の思い込みによっておこる問題の解決手段を考える。
- ・インターネットやSNSなどから受け取った情報を安易に信じて発信しないでいようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・カラスのイメージを想起し、それが事実なのかイメージなのかを考え、イメージは必ずしも事実ではないことを考える。
- ・伝言ゲームの取組みを通じて、噂話が必ずしも正確ではないことを知る。
- ・実際にあったネット上のトラブルの事例に触れて、差別や偏見が生まれていることを知り、自分の行動を振り返る。

工夫した点

- ・教材『カラスのイメージ』や、伝言ゲームなど、児童に分かりやすく体験ができるよう、工夫した。
- ・ネット上のトラブルについては、このコロナ禍の中での実際の出来事（トイレトペーパーの買い占め問題）を取り上げ、児童にとってより身近な話題を用いて授業を行った。
- ・上記の学習を踏まえたうえで、安易に噂話を広めることで人を傷つけることがあることを知り、それが差別的な見方につながるということを学んだ。

他教科との
関連

道徳、総合的な学習

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

大阪府

学校名

羽曳野市 はびきの埴生学園

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

6年生・保健

目標・人権教育のねらい

- ・性の多様性を認めることができる。
- ・性に関する身近な課題に気づき、考えることができる。

実施した内容

- ・昨年度行ったLGBT学習を振り返り、性別は男女だけではないことを確認する。
- ・身近にある性についての思い込みについて、事例を挙げて考える。
- ・学校生活の中で、性別について分けられていること、もの、場所について考え、その必要があるのかを議論する。
- ・性別で分ける場合には、どのような意識や工夫をすべきかを考える。

工夫した点

- ・この学習は、学級に、自分の性に違和感を抱く子どもがいる前提で、配慮しながら取り組みをする必要がある。具体的には、授業で取り上げる事柄について、からかったり、バカにしたりするような雰囲気にならないように、同時に素直な疑問や考えを言えるような雰囲気を作る必要があった。
- ・自分の考えを「書く」ことによって、自分の考えと向き合い、全員が考えをもったうえで対話できるようにした。

他教科との
関連

保健